

●ロカベンを全面的に利用した事業性評価への取り組み

- 名称 株式会社京葉銀行
- コミュニケーションネーム αBANK(アルファバンク)
- 代表者 頭取 熊谷 俊行
- 本店所在地 千葉県千葉市中央区富士見1丁目1番11号
- 創立 1943年3月31日
- 資本金 497億円
- 役員員数 2,010名
- 預金 4兆5,584億円
- 貸出金 3兆5,274億円
- 事業内容 預金業務 融資業務 為替業務 その他代理業務

導入経緯

ローカルベンチマーク導入前の状況

当行では、永年にわたり担当者や支店長などが融資先企業やターゲット企業への定例訪問を行い、実権者への実査面談を通じて財務状況のみならず、現状把握や課題解決に努めてきた。

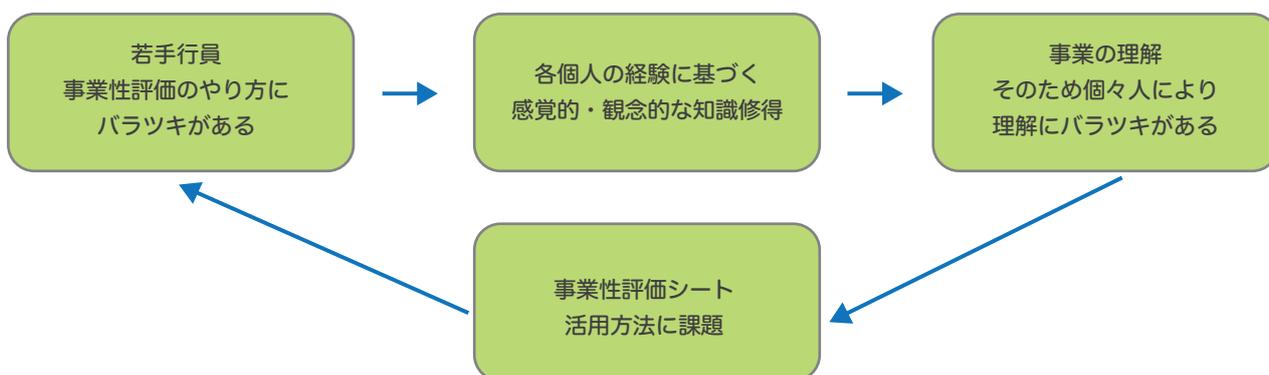
2015年4月からは、事業性評価のための評価シートを導入。経験の深浅を問わず、幅広い世代の行員が体系的に知識を修得できるよう環境を整えた。この評価シートの活用により、行員は事業性評価のスキルをこれまで以上に向上させた。

そして今回、ロカベンを加えることで、適格な評価に基づいた、より精度の高い評価を可能にする手法を学べる環境が整った。企業が抱える課題解決に向け、より迅速により質の高い提案が可能になると考える。

問題意識

- ・ 融資先企業やターゲット企業への実査面談のノウハウは、上司やベテラン行員の指導により若手行員へ伝承してきたが、これは体系的な知識修得というよりは各個人の経験に基づく感覚的・観念的な知識修得の側面が強かった。
- ・ 経営者とのコミュニケーションや具体的な事業内容の把握といった面をいかに適切に指導していくかが、重要な課題の1つとなっていた。

悪循環に陥っていた状況

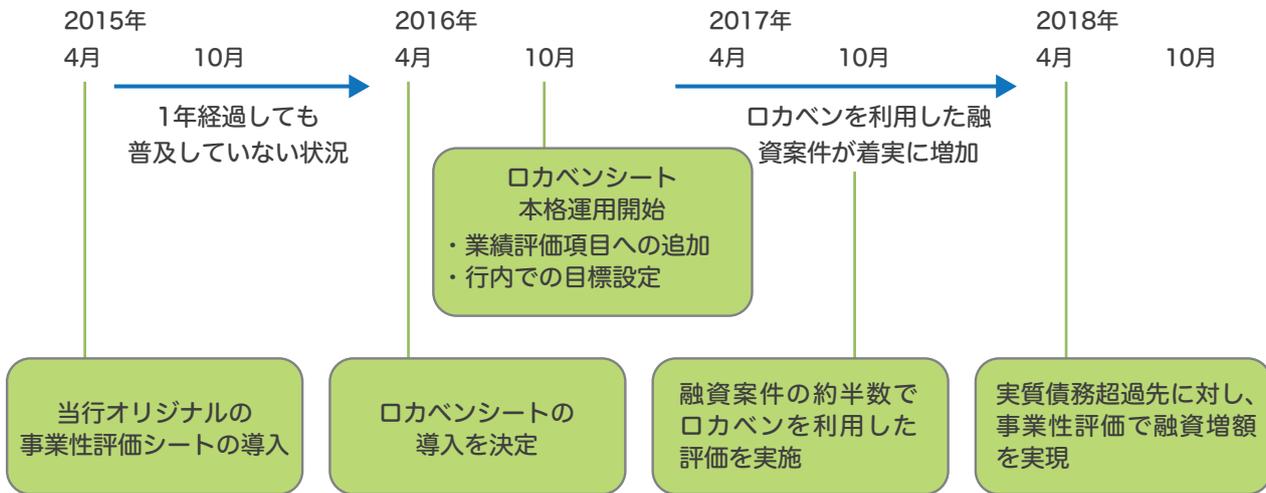


2016年3月に経済産業省からロカベンが公表され、当行が使用していた評価シートよりも、より具体的な記載内容となっていた。このため、これらの仕組みを取り込み、活用する方針とした。

取り組み体制の構築

ロカベンの取り組み

- 行内に対しては、2016年3月にロカベンの活用についてアナウンスしたものの、仕組みの理解や浸透には時間を要するとの判断から業績評価項目への追加や行内での目標設定は、半年経過後の2016年10月に実施した。各営業店での積極的な取り組みを実施したため、事業性評価を行う融資案件のうち、約半数においてロカベンを利用した評価を実施した上での融資実行となった。



ロカベンシートが浸透した背景

従来から詳細な評価フォーマットが存在していなかったため、比較的ロカベンの評価方法を受け入れやすい環境にあった。加えて、審査グループの担当者が半期で30店程度の営業店を巡回し、ロカベン活用のための啓蒙活動を実施した結果、行内での意識も高くなり活用が進んだ。

活用の効果・課題

ロカベンを使った事業性評価を実施した結果、当該社の財務内容は厳しいものの、事業性の価値は高く、また将来性も見込めることが判明。

業種	従業員規模	状況	結果
建築工事業 (経営者50歳男性)	90名	業績は堅調に推移しているものの、過去多額の不良債権が発生するなどして実質的な債務超過状態に陥っており、取引銀行は多かったものの、債務超過状態や条件変更先などの理由で新規借入は難しい状況だった。	ロカベンを使った事業性評価を実施、その結果当社財務内容は厳しいものの、当社の事業性の価値は高く、また将来性も見込めることが判明。複数行の借入を当行に一本化し、かつ融資総額の増額を実現した。

行内全体に対する効果

従来は、経営者と対話ができているようでできていない状態だったが、ロカベンを起点としてさまざまな問題や課題、また将来のビジョンなどを引き出す能力が行内全体に浸透した。この結果、無保証人での融資件数の増加や、経営者保証を安易に求めない流れができつつある。

今後の課題

ロカベンは行内に十分浸透できている状況であり、また1回だけの使用にとどまらないよう、継続的なロカベンの利用を評価項目に加えるなどの仕組みを取り入れている。

一方で、作成したロカベンシートを経営者と共有する状況には至っていない。これらの仕組みを取り入れた当初は、シート作成にもまだ慣れていない状態で、先方へ提示する水準には至っていないとの判断であった。しかし、導入から2年が経過し、シート作成のレベルも着実に向上してきているため、さらに一段階進めて、経営者との現状や課題の共有、またその課題の解決に至る道筋を作っていく。